

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・1月前半は穏やかな天候だったが、後半は天候の悪い日が多く、交通機関も大幅に乱れることが多かった。ただ、1月の売上そのものは決して悪くなかった。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・1月26日時点の利用客数は前年比約110%と大きく伸びている。例年1月は年間で最も利用客の少ない月だが、このままでいけば開業以来最高の入込数となる見込みである。北海道ふっこう割の効果でシルバー層を中心とした団体ツアー客が好調である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は初雪が遅かったこともあり、冬物の販売が良くない。年明けからの断続的な大雪や寒さにより、外出が減っていることもあり、一般店は苦戦を強いられている。北海道胆振東部地震後の防災関連商材への支出増の影響からか、消費マインドも低下している。また、販売不振に加えて、飲食業界の落ち込みもひどく、景気の回復が見込めない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・例年1月は年末商戦の反動もあり、売上が芳しくないが、今年は堅調に推移している。新規の取引先が大幅増えてきていることも寄与している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・北海道胆振東部地震後の落ち込みが解消し、震災前の水準以上に売上が回復している。たばこの値上げによる上乗せ分に加えて、生活関連商材の売上も回復している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客単価の動きが好調であり、買上点数も増えている。来客数の減少分をカバーできている状況にある。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の投入を控えている中、年が変わってから、新車の受注量がやや上向きになってきている。ただ、需給バランスが悪く、登録台数に反映されていないことが悩みである。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数をみると、目標台数までは届かないにしても平均して8割程度まで達している。春先需要の時期ということに加えて施策効果もあり、軽自動車を中心に売れており、新車種も売れている。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・タイヤや工賃の値上げをしたにもかかわらず、来客数が前年比110%と伸びている。
		一般レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・中国、韓国からの観光客に加え、オーストラリアからの観光客も戻ってきており、来客数、客単価共にアップしている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・国内の旅行商品で北海道ふっこう割を活用した商品が堅調に推移している。韓国以外の外国人観光客も回復基調にある。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震及びブラックアウト後の1～2か月こそ観光需要が減少したが、今は回復してきている。また、ビジネス需要は観光需要よりも早く9月末から徐々に回復に向かっている。その結果、航空路線利用者数は前年を上回る傾向に戻ってきている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・北海道ふっこう割により観光客の入込が増加している。また、当地の農業収穫高が前年に次ぐ過去2番目の水準となったこともプラスである。
		タクシー運転手	販売量の動き	・観光入込客が回復してきており、営業車の稼働率が前年を上回って推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・年明けということもあり、客の動きとしてはまずまず落ち着いている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月初旬及び中旬にかけて客の出控えが目立っていたが、25日以降、セールやイベントを行う店舗が出てきたことで、当地区の来街者数は持ち直しており、全体では例年並みとなった。地域外からの観光客も一部みられるが、買物などを行っている様子はみられなかった。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物が例年どおりの出荷状況で推移していることもあり、好調に推移している。	

一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・外国人観光客の消費が旺盛で、中国人を中心に売上が大きく増えている。ただ、韓国人については前年並みにとどまっている。一方、国内客については、まだ北海道胆振東部地震の影響があるのか、前年比で10%ないしは5%のマイナスとなっている。外国人観光客と国内客で明暗が分かれている。
百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・婦人服などの衣料品や家庭用品の買上客数が依然として大幅に減少している。例年と比べて気温が高めに推移したこともあり、特にコートは期間を通して苦戦した。
スーパー（店長）	お客様の様子	・新年を迎えても節約志向が依然としてみられ、必需品以外は若干の低価格でも購入を控えている客が目立つ。
スーパー（店長）	来客数の動き	・近くの競合店が閉店したものの、売上、来客数共に伸びている傾向がみられない。売上の横ばい又は下がっている状況にある。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・足元の売上状況を見ると、買上点数や客単価は前年と比べてもまずまずの水準を確保しているが、来客数の減少傾向に歯止めが掛かっておらず、売上が伸び悩んでいる。
スーパー（役員）	来客数の動き	・例年と比べて降雪量が若干少ないこともあり、1月の来客数はここ数か月と比べてやや増加しているが、相変わらず前年を下回って推移している。当地は毎年人口が0.8～1.0%減少しており、その中で集客競争となっていることが要因とみられる。売上の横ばい、客単価の落ち込みがみられないことが救いである。
スーパー（役員）	お客様の様子	・野菜が安いと、魚、肉などの品数を増やして買う客が多く、売上が好調である。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年並みだが、前年は大雪の影響があったことを踏まえると、実質的な景気は3か月前と変わっていない。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・初売りは前年並みであったが、月後半に入り来客数が減少している。ただ、寒さが厳しいため、暖房機器は前年並みに売れている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果がなかなか出てこない。これからの新型車に期待している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数が前年と同水準で推移していることから、景気に変化がみられない。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・依然として、外国人観光客関連業種の景気が良いようだ。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・当店は大きなショッピングセンターの中に入っているが、客が余り買物をしていない様子が見える。当店の訪れる客についてもそれほど大きな買物をしている様子が見られない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・子供連れの家族客、外国人客、そして団体客と観光客が増えている。観光客は目的の場所への行き方や交通機関を尋ねることが多いため、その都度、周辺マップと時刻表を渡し、客の要望に応えている。また、外国人客に対しては翻訳機を活用することで丁寧なサービスを心掛けており、満足してもらっている。閑散期であるが、利用客数は前年比で23%の増加となっている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・土日祝日の売上は良かったが、それ以外の平日、特に月後半は昼夜共に減少傾向にあり、ぎりぎり前年並みの売上に落ち着いた。地元客は、正月以外に連休があると、ほかの日の外食費を切り詰めるようだ。外国人観光客は増え続けているようで、当地のホテルは活況を呈している。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・外国人観光客は僅かながらに回復傾向にあるが、国内客の動きが鈍化している。
タクシー運転手	来客数の動き	・1月は雪の日が多かったため、タクシー1台当たりの売上も前年比で5%ほどのプラスとなったが、乗務員不足でタクシーの稼働率が落ちていることもあり、会社の売上は前年比マイナス5%であった。

	タクシー運転手	来客数の動き	・スキー場への送迎のオーダーは順調だったものの、観光客のオーダーが減少したため、全体的には変化がなかった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店間隔、支払単価共に大きな変化がなく、同じような動きで推移している。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・1月は1年で最も輸送量の減少する時期であり、前年と比較してほぼ変わらない輸送量となっていることから、景気は変わらない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・初売りは前年とほぼ変わりなく推移したが、月全体をみると、大雪などの天候不順の影響で客足が大きく減少した。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・特選ブランドや時計、宝飾品など、前月まで好調に推移していた高額品の動きが悪くなっている。
	百貨店（担当者）	お客様の様子	・駅前地区の百貨店が閉店セールを開催していることで、顧客の関心が駅前地区へと向いている。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・正月明けの初売りから、曜日並びの影響で苦戦を強いられている。中旬以降も雪の影響などでプラスに転じられないまま月末を迎えている。外国人観光客の好調さから免税品の売上は大きく伸びているものの、それ以外の一般消費が厳しい状況となっており、全体としてマイナス基調から脱却できていない。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・来客数が増えているにもかかわらず買上客数が増えていない。
	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数が回復傾向に転じてきたが、客単価がダウンしている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数が回復しているにもかかわらず、売上が下がっている。商品単価が上がっているのに売上が下がっていることから、客の購買意欲が低下しているとみられる。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・当地の主力産業である漁業において、ロシアの臨検により北方領土海域内での漁が制限されている。当店の売上にも影響が出ている。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・12月は天候が穏やかで客足にもプラスであったが、1月に入ってからホワイトアウトなど、天候の悪い日が多くなっている。1月はただでさえ営業日数の少ない月であるため、売上の的にも堪える。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・市内の大型店撤退の影響がみられる。
	タクシー運転手	お客様の様子	・地方の景気は相変わらず回復傾向になっていない。1月は一層厳しい状況となっている。タクシー業界は日ごとの変動が大きいですが、景気回復の兆しがみえない限り、客の動きの鈍さが増すことになるかと危惧している。会社の売上も前年と比較して約600万円の落ち込みとなっている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・冬期間の天候不順により、客の買物機会が例年よりも少なくなっている。新年会の規模も縮小傾向にある。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ3か月、5%未満と僅かな減少率ではあるが、来客数が減少してきている。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・業界全体が価格低下、人材不足で悩んでいることから、景気はやや悪い。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・建設業界のゼネコン部門は非常に好調だが、一般住宅部門は消費税増税前の駆け込み需要も今一つであるなど、今後の対応が求められている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来訪客について、商談に要する時間が長くなってきている。また、前月と比べて来訪客数の伸びも余り大きくない。
×	タクシー運転手	販売量の動き	・売上の減少が続いている。短期的な諸要因を考慮しても景気減速との判断は否めない。
×	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・前年秋の北海道胆振東部地震後から増えていた古い通信端末からの買換え需要が高齢者を中心に急に収まってきており、当初の見込みと比べて販売量が低迷している。

企業 動向 関連 (北海道)		建設業（従業員）	取引先の様子	・年度末の契約工期を控えた建築現場では、これまでの労務者不足などによる遅延が影響して追い込み最盛期にある。特に鉄構業界でこうした動きが顕著である。ただ、その一方で今後の遅延のリスクもはらんでいる。
		その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・数か月前の予測よりも大幅に売上が伸びている。ただ、ベース商材の動きが鈍いことが気掛かりである。
		輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格の改定要請の理解が得られやすくなってきている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅投資は弱含みで推移しているものの、個人消費は底堅く推移している。これまで道内景気をけん引してきた観光も、北海道ふっこう割の効果などで国内客が前年を上回ってきているほか、外国人観光客の減少幅が縮小するなど、急速に持ち直してきている。北海道胆振東部地震の影響緩和が続いていることで、道内景気は3か月前に比べてやや良くなっている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年と比べて、降雪の影響が少ないことから、受注工事は計画どおり順調に進行している。完工高、利益共に積み上がりの良好な状況に変わりはない。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年は北海道産農作物が全般的に不作であったが、平年並みであった砂糖、でん粉関連で倉庫保管、輸送の動きが出てきている。一方、ほかの貨物については荷動きが低調となっている。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・前月は各種の指標の動きからやや悪いと判断したが、1月に入ってから株式市場や各種の指標の動きが落ち着き始め、それと連動するように身の回りの企業活動も3か月前と同程度の水準まで回復してきた。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の新築などの動きをみると、前年12月までに契約済みの案件が現在実行されていることで多少の動きがみられるが、2月以降3月までの状況は不透明である。
		司法書士	取引先の様子	・降雪前の不動産取引が低調であったため、景気が良くなってきたとの実感はない。景気動向に変化はみられない。
		コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・客先が必要最低限の購買にとどめている傾向がみられる。
		その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・今年に入り売上がほぼ前年並みで推移している。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年が明けて急に荷動きが悪くなっている。前年と比較してもやや悪い状況にある。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・1月の販売量は前年比マイナス3%であるが、3か月前の9月の販売量は前年比マイナス2%であったため、景気はやや悪くなっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・小売店からの受注が減少している。全国的に天候不順や地震などの影響が残っているほか、世界的な景気の減退が地方にも波及し始めている。
		司法書士	取引先の様子	・例年と比べても住宅建設の受注、宅地売買の動きが少ない。
	x	-	-	-
雇用 関連 (北海道)				
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・北海道胆振東部地震の直後は、自粛ムードも含めて観光客や店舗の集客状況が落ち込んでいたが、現在は季節要因もあり、回復してきている。年明け以降は、自粛ムードも感じられず、例年並みの集客状況に戻っていることから、雇用環境もやや良くなっている。

	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・前年9月に北海道胆振東部地震があったが、北海道ふっこう割の効果で観光客は震災前の水準に回復している。毎年2月に行われる冬のイベント目当ての観光客も、外国人観光客を中心に前年を上回る見込みとなっている。さらに、空港の国際線ターミナルの拡張整備が行われており、先日オープンしたホテルも集客が好調で、新たなホテル建設計画も進んでいる。こうした動きに関連した求人も発生しているなど、雇用環境はやや良くなっている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は相変わらず堅調に増加している。1月早々にもかかわらず前年の2倍と3か月前とほぼ同数の求人が寄せられている。ただ、スキルの高い人材が減少傾向にあり、マッチングに苦労している。取引先の携帯ショップでは、若年者であれば過去のキャリアにかかわらず、すぐ面接を行い、採用判断をするなど、業績の維持、拡大に向けた新たな動きもみられている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・全業種及び職種で応募者数が減少している。なかでも建設、土木関連の厳しさが増している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人を出しても、採用が決まらないため、求人数が低調に推移している。特に個人消費関連業種での落ち込みが目立つ。また、年明け早々であることから、様子見ムードもうかがえる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・流通業や小売業において、売上の伸びが鈍化しているとの話を聞く。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が4か月連続で前年を下回ったが、月間有効求職者数が7年2か月連続で前年を下回ったことから、有効求人倍率は1.13倍と前年を8年10か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の有効求人倍率は1.22倍であり、前年を0.08ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が4か月連続で減少しているが、専門的・技術的職業の正社員求人割合に大きな変動はみられない。一方、医療、福祉などの人手不足分野では正社員求人の更新割合が高くなっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・道内各企業の採用担当者の動きから、1月は大きな変化がみられない。
	-	-	-
x	-	-	-